



赤麻小だより

第17号

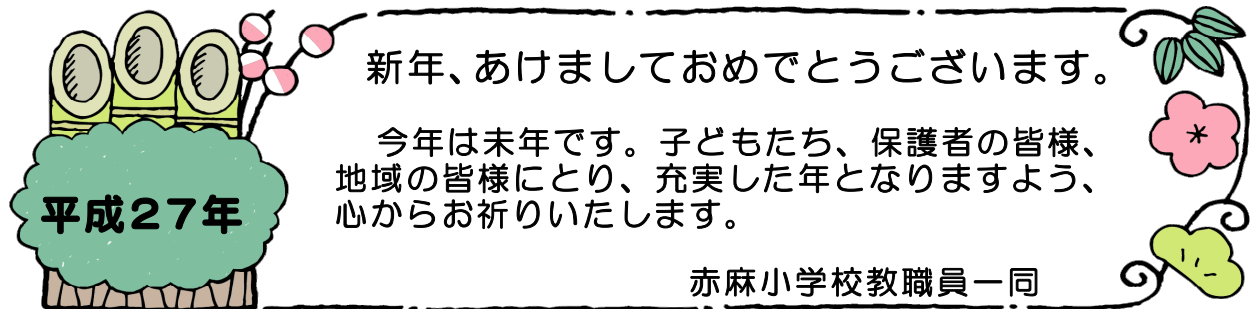
平成27年1月9日

発行所：栃木市立赤麻小学校校長室

平成27年がスタートいたしました。13日間の冬休みが終わり、いよいよ学年のまとめとなる3学期も始まりました。昨日は北風の中、子どもたちが元気いっぱいに登校してきました。子どもたち全員が事故や事件にも遭わず、3学期の始業式を迎えられたことを何よりもうれしく思います。冬休み期間中も、保護者、自治会、育成会、ボランティア等の皆様が適切なご指導や温かい見守りをしてくださったおかげと、心より厚く感謝申し上げます。

各教室では、冬休みの楽しい思い出をたくさん抱え、新しい年の希望や目標を胸にした子どもたちが、友達と語り合う姿があちこちで見られました。

我々教職員も3学期の準備を進めてまいりました。それぞれの学年のまとめの学期となります。子どもたちが夢をもって進学・進級できるよう、本校の教育目標の具現化を目指し、教職員一同精一杯努力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



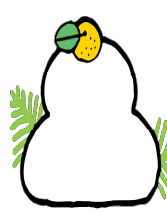
新年、あけましておめでとうございます。

今年は未年です。子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様にとり、充実した年となりますよう、心からお祈りいたします。

赤麻小学校教職員一同



一年の過ぎるのが毎年早く感じられるようになりました。「年のせいかな??」などと思うこの頃ですが、1月も七草、鏡開き、成人の日と過ぎていくうちに、一年で最も寒い「寒」の時期に入っているのです。今年のお正月は比較的穏やかな天気が続いたように思いますが、厳しい寒さはこれからが本番。学校でもインフルエンザの流行に備えて、子どもたちに手洗い・うがい・体の休養と食事について呼びかけているところです。久しぶりに始業式の朝に校門に立ち、登校して来る子どもたちをあいさつをしながら迎えましたが、風邪の強さに体が吹き飛ばされそうになりました。しかし、赤麻小名物の西風旋風はまだまだということでした。寒さに負けず赤麻小の冬を乗り越えたいと思っております。



ことば あ・れ・こ・れ(8)

昨年は大雪に悩まされましたが雪空を見上げたときの感覚がよく表現されている詩を紹介いたします。まどみちおさんの「ゆきがふる」です。

ゆきがふる

ゆきを みあげて たつ ぼくに

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

ゆきを みあげて たつ ぼくに

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

とつぜん ぼくは のぼってく

せかいじゅうから ただ ひとり

そらへ そらへと のぼってく

ふと きがつくと ゆきが ふる

ゆきを みあげて たつ ぼくに

ふるふる ふるふる ゆきが ふる

まど みちお



* 困難に負けず立ち向かう一年に *



我が家では、毎年家族で初詣に出かけ、その年にまつわるお話を宮司の方から聴いてきます。そして一年の心構えを新たにもつことにしています。その話をここで紹介したいと思います。



今年の干支は丁未（ひのとひつじ）です。ヒツジと言えば何が思い浮かぶでしょうか。昔から家畜として人間の傍に存在する羊です。一番古い記憶ではメソポタミア地方（今のトルコあたりです）での飼育の記録があるそうです。

日本ではというと、意外にも飼育が始まったのは明治に入ってからだそうです。日本の気候が羊の飼育に向かなかったことが理由としてあげられます。しかし、羊の存在自体は日本の記録にもたびたび登場し、推古天皇に百済から送られた品物のなかにラクダや羊がいたというのがもっとも古い記録だそうです。その後、源氏物語の中でも自ら命を絶とうとする女性の心情を羊に例える文章が出てきます。

昔から、羊は食糧として、また羊毛は衣服として利用されるとともに、生贄の動物としても知られていました。犠牲の犠という字の中には、牛と羊の字が入っていますが、これはこの二種類の動物が生贄としてよく用いられたからです。

さて、干支のほうを見てみましょう。「丁」という字は、土から芽を出した植物が、日照りや水不足といった妨害にあって思うように枝葉を伸ばせない様を表した字です。そして、「未」という字は指示文字のひとつで、木の先端にある梢や葉を示す字です。木の上にある一画目は短くなっています。木は伸びすぎてしまえば葉が日光を遮ってしまい、木自体にとってよくないため茂りすぎた葉や枝を切る、剪定をすることです。それによって、さらに木を強く成長させるのです。さらに、「未」という字は、未然や未来などと使われるように、「まだ訪れていないこと」「まだやれていないこと」などを意味します。特に、やるべきことは分かっているけれども、それを実行するためにあと一歩踏み出せずにいる状態を示すのだそうです。そのことから、この丁未の年は、何か新しい物事を始めようと思っても、周囲の反対や妨害にあって思うようにいかない年であるとされます。

しかし、その中であっても、悪いこと、良くないものは思いきって切り捨て、自分のやるべきことや目指すべきものを心にもち続けることで、次の一歩を踏み出すことができ、自分自身への成長へと繋げていくことができる年なのです。



以上が新年に当たっての宮司の方の話(概略ですが)です。それぞれが新しい目標に向かいスタートしても、当然多くの壁や困難も出てくるでしょう。思うように伸びることのできない植物のように、思う通りに物事が進まないこともあるはず。そういう時、人はつい楽な方に流れやすくなったり、誘惑に乗せられたり、悩み迷い諦めたりするものではないでしょうか。しかし、自らの心を成長させるための剪定を行い、目標に向かって一歩一歩進んでいきたいものです。

新年の誓いを立てた子どもたちにとって、困難に負けず立ち向かい、壁を乗り越え自分自身を成長させるための一年になるよう願っております。



